

2023.07.26

2023年度将来構想検討・FD・自己点検委員会 報告書
(卒業生ヒアリング)

経済学部 学部運営委員会

内容

(1) 卒業生ヒアリングの開催報告

2023年7月に卒業生ヒアリングを以下の要領で実施し、議事要録等を取りまとめた。

(2) ヒアリング対象者の概要

① 対象者一覧 (順不同)

- (商社) 1974年経営学科卒
- (公務) 1988年経済学科卒
- (通信) 1996年経営学科卒
- (物流) 1999年経営学科卒
- (建材) 2002年フランス語学科

② 日程・形式等

- 7月8日(土) 10:00~11:30 第一回として倉橋学部長がヒアリング
通信、物流
- 7月14日(土) 書面で回答
公務
- 7月22日〔土〕 10:00~11:00 第二回として学部運営委員会がヒアリング
商社、建材

③ 質問事項

- ・ 情報科学教育プログラムについてどう考えるか
- ・ キャリア教育で何を教えることが必要だろうか
- ・ その他

2023年8月25日

2023年度第一回卒業生ヒアリング議事要録

経済学部
倉橋 透

(開催日時) 2023年7月8日 午前10時～11時半
(開催場所) オンライン
(卒業生) 通信業界 1996年経営
物流業界 1999年経営
(聴取者) 経済学部長 倉橋 透

議事概要

1. 情報科学教育プログラムについて

(今福教授による説明動画視聴)

<https://www.youtube.com/watch?v=q0Q076o2-Tg> 獨協大学経済学部

(倉橋)

特に、情報学部をつくるのではなく、全学部から挑戦できる教育プログラムを用意する点についてご意見ありたい。

(通信)

大いに賛成する。10～20年前は国際系という流れだったが、昨今は情報が時代の流れに合っていて必要とされている。

(物流)

良い取り組みだと思う。

IT業界だけでなく、ビジネスに必須のリテラシーとして捉えることが重要。一方で学生さんにこれさえやっておけば何とかなると思われても困る。デジタルのスキルだけでなく、プロジェクトのマネジメント能力とセットでやっていく必要がある。デジタルを使いこなした上で、どう組織に定着させるかという説明が必要。

4月から情報セキュリティの部署に移ったが、コンプライアンスリスク、リーガルリスク、個人情報保護などの法的な問題が重要である。例えば個人情報保護なども扱っていると、システムを使いこなす中でのリスク管理能力が上がってくる。

(倉橋)

新カリキュラムでは、情報セキュリティ論も登場する。

また、DXでデジタル化はできても、変革(X)のところまではなかなかいって

いないのではないか。

(物流)

ウーバーイーツのようなビッグテックと言われるプラットフォーム的なのは、日本の中ではでてきていない。

(通信)

DX はデジタルを活用した変革と定義されることが多いが、サービス開発と業務効率に分けて考察すると、日本で革新的なサービスが生み出されていない現状はあるが、事業効率をあげるためのデジタル化は今後も求められていく領域と思われる。特に今後増えていくシニア世代がいかにデジタル技術を活用して日本の労働力に貢献するかは重要なテーマだと考えている。

(倉橋)

IT 会社以外でも、デジタル化が遅れている。デジタル化がわかっていなくて、IT 会社にシステム開発の発注をすることもある。

(通信)

学生が IT 企業以外に行って、IT を進めキャリアを積むというのも選択肢になる。

(物流)

物流というデジタル化と真逆な労働集約的な産業に IT を取り入れて仕事をしているが、人間中心の対話型コミュニケーションを基としたシステムのデザイン設計能力の向上に力を入れている。

また、システム開発においては、要件定義プロセスがしっかり行われることが非常に重要である。ここがしっかりできないと、工数、コストが余計にかかったり、システムがトラブル続きになったりする。

2. キャリア教育について

(日本財団の 18 歳意識調査、六カ国比較を見る。

日本人の若者が消極的であることをみる)

日本財団 HP

<https://www.nippon->

[foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/new_pr_20220323_03.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/new_pr_20220323_03.pdf) 3_03.pdf

(倉橋)

堺屋太一氏も晩年、日本の若者について、「夢なし、欲無し、やる気なし」と言ったという。こうした若者が大学、さらに企業に大量に入ってきたら現場が大変なことになるであろうと考える。これに対応するには、早めにキャリア教育を行って、自分の進む方向について考えさせ、気づかせていかなければならないと思うが、どのようにキャリア教育を行っていくべきか。

(通信)

日本の若者が消極的になるのは、幼稚園から「みんな仲良く」という強いメッセージを送っている中で、そこを「個性」、「リーダーシップ」へと変えることの難しさが大前提としてある。

まず大学で学ぶこと以前に情報集めが不足しているのが、消極的になっている。大学生では、キャリアを描ききるのは困難である。ただ、世の中にはどういう会社があって、どういう職種があって、どういう資格があって仕事をしているのかわからないので消極的になっている。「業界地図」を大学1年で読ませる。その後、学生自ら、「自分はこれがやりたい」、「自分はこれができる」という点を学生が自らロジカルに棚卸しし、積極的に勉強していけばよい。

(物流)

まず情報が必要な点は同意する。

学生の段階で詳細にキャリアは書けない。

ステーブ・ジョブズがスタンフォード大学の卒業式でやったスピーチでも、「将来を予測して何かやることはできない。後から点が線に結ばれていく。今をしっかりとっておくことが重要である」とされている。キャリアを先にデザインすることは難しい。

(Steve Jobs Speech 全文

<https://note.com/sangmin/n/n42a3c9683b92> Sangmin Ahn 氏の note)

ネガティブなのは、社会全体でもそうで、閉塞感が漂っている。社会の将来性が見込めなくなっている。また、キャリアデザインに当たっては、政治や歴史を正しく認識すること、その中で自分が社会にどう貢献できるか考えることが不可欠である。

(倉橋)

初代学長の天野貞祐先生は、「大学は学問を通じての人間形成の場」と言っている。人間ないし人格と、専門知識の集合としての人材とは異なる。全カリで教えている教養科目等で与えられる様々な知識が、学生の中で知恵に昇華され、知恵同士が有機的な化学反応を起こして、人生観、世界観、人格が生まれるのではないかと思うが、いかがだろうか。会社の中でも、人材というだけではマネジメントはできても、リーダーとして組織を率いていくのはいかがなものだろうか。

(通信)

大学教育で人格形成は限界がある。

ただ、例えば部活の中でリーダーシップにもいろいろな形があることを学ぶなど、人格形成の道しるべを提供することはできる。授業だけでなく、学生同士

の関わりの中で学ぶこともある。

(物流)

教育の中での人格形成には限界がある。教え込むものではない。

人格形成は、自らつかみとることが重要である。例えば地域の企業と連携してプロジェクトを立てるゼミがあると聞いているが、その取り組みは非常に良い。社会課題を認識し、自ら解決していく中で人間形成や社会の理解が図られる。プロジェクトの中で、世の中がどうなっているかという理解や、倫理観の醸成が進む。学生が社会に対してどう接すれば良いか、そのためにはどのようなスキルが必要かを考えるようになる。大学ができることは教育もさることながら、場の提供（プロジェクト、OBとの交流、インターンシップ）である。OB自身も、学生との交流を通じて人間形成ができる。そういう「開かれた大学」となることで獨協大学の良さがもっとでてくる。

(高安ゼミの、草加のB級野菜レスキューの動画を視聴する)

<https://www.youtube.com/watch?v=QQZKCTu8vS0> 農林水産省

(物流)

こうした取り組みが大学の中で完結してしまうのではなく、プラットフォームとして広げていくこと、社会基盤になっていくことが必要である。

(通信)

素晴らしい取り組みである。今の時代にマッチしている。稲森和夫先生の言葉で、経験とか環境によって人格形成がされていくことから、非常に良い取り組みと考える。

(倉橋)

一方で、獨協大学は良い取り組みをしても情報発信、広報が十分ではなかった点は否定できないと思う。

(Earth Week Dokkyo2023~Summerでの、留学生との地球温暖化対策についての動画視聴)

<https://www.youtube.com/watch?v=S0XC5S8zeJY> テレビ埼玉

(倉橋)

学生さんは皆しっかりしていて、さきほどの日本財団のアンケートの印象とは違うようだが、どうだろうか。

(通信)

学生さんは非常にしっかりしていると思う。

メディアにいたのでその視点から言うが、このような取り組みを誰に対してどういう目的で広報するかは考えるべきこと。民間企業なのか、地域住民なのか、高校生なのか。そういうことを考えることで、もっと良い大学になり脈々と続いてゆけばと思っている。

(物流)

良い取り組みであると思う。アンケートとの違いについては、アンケートに答えたのはマスとしての18歳人口であるのに対し、獨協大学の今回のイベントに参加したのは経済的にも余裕がある層であることから違いが出ているのだと思う。

国内で留学生とふれあう環境は、向こうにとってはアウェイである。一方、日本人がアウェイとなる複数環境を体験し、例えばアメリカ、ドイツ、中国の価値観、文化の違いを受け入れることが重要である。知識を得るのではなく、文化の違いを受け入れる訓練が重要である。

3. 大学で学んだことが役立ったこと

(通信)

学問としては浮かばない。

小中高は波長のあう者同士の比較的狭いコミュニティにいた大学時代は、社会との中間である。小中高より遙かに広い人間関係で、波長の合わない者とも違いをかみ殺しながら過ごす期間であった。社会ではタフさと、気働き・調整のための繊細さが必須である。大学時代の人間関係に中で、タフさと繊細さを培った。

(物流)

当時の情報システムに関する授業は仕事に直接役立っている。また 経済学は元々好きだったので、社会情勢をみる上で今でも役立っている。教職科目の中の歴史や文化についての授業はものの見方という点で役立っている。さらに、ゼミでゼミ副長をやっており、ディベート大会の企画運営や(教員が海外研修にでかけていたので)論文のとりまとめなど、組織運営について学ぶことができた。

(倉橋)

有益なお話をいただき、誠に有難うございました。本日は長時間にわたり有難うございました。

(以上)

2023 年 8 月 25 日

2023 年度第二回卒業生ヒアリング議事要録

経済学部 学部運営委員会

(開催日時) 2023 年 7 月 22 日 (土) 午前 10 時～11 時
(開催場所) オンライン
(卒業生) 商社 1974 年経営学科卒
建材業界 2002 年フランス語学科卒
(聴取者) 経済学部長倉橋透、
経済学科長西牟田祐二、経営学科長平井岳哉、
国際環境経済学科長樋田勉

議事概要

(倉橋)

本日は、お休みの日にお時間をいただき、恐縮です。本日は、①本学での情報教育について、②人格形成のためのキャリア教育、③社会人として大学教育で役立ったことの 3 点について、お話をお聞きしたいと思います。

議事概要

1. 情報科学教育プログラムについて

(倉橋)

次のビデオを見ていただきたい。

(今福教授による説明動画視聴)

<https://www.youtube.com/watch?v=q0Q076o2-Tg> 獨協大学経済学部

(倉橋)

デジタル化が進んできているが、例えば企業のデジタル化をシステム会社に発注する場合において、実は発注側の企業がシステムそのものを理解していないケースもあると聞いている。獨協大学では、新年度から全学部から挑戦できる学部横断的な情報科学教育プログラムをはじめます。まず、この点についてご意見をお聞きしたい。

(商社)

IT、AI、デジタルの進化は止まらない。それに対応する態勢が必要だ。獨協大学で新情報プログラムを用意することはとてもいい。全学部の学生が選択できる点もいい。情報化は共通課題であり、大学としての魅力が増すはずだ。

(建材)

いい取り組みだと思います。弊社でもデジタル人材教育がようやく始まった段階です。営業の会社のため情報システム部を含めて文系の社員が多いのが実情です。システムを作っても、各課でデータ分析をできる社員が不足しています。データサイエンスは今の企業にとって役立つはずですが。ほかの大学では、こうした情報教育はどうなっているのですか。

(倉橋)

千葉大学では横断的な数理・データサイエンス教育を副専攻として開設しています。我々もヒアリングを行いました。情報学部や情報学科を開設した大学は既にいくつかあります。千葉大学も来年4月情報・データサイエンス学部を設立するとのことでした。最近だと女子大でも学部・学科の開設が見られます。ただし、こうした縦割り組織の学部・学科では、その分野の科目習得が中心になります。横断型の教育プログラムは意外に少ないと思います。

(商社)

偏っていない人材をつくるのは、大事なことだと思います。常識として情報科学のことがまずわかるということはとてもいいと思います。専門性も重要だが、経営者になるとバランスが取れた人材でないといけないところがあるからです。

(建材)

ITだけではなく、一般の企業から求められるようなバランスの取れた人材ですね。学生はどれくらい関心をもっていますか。

(倉橋)

大学や経済学部のサイトに情報科学教育プログラムの紹介を出しています。また経済学部のYouTubeチャンネルに紹介動画をすでにアップしていて、視聴数も多いです。秋には東武線・地下鉄で車両広告も出す予定です。

2. 人格形成のための大学教育について

(倉橋)

次の資料を見ていただきたいと思います。

日本財団の18歳意識調査、六カ国比較を見る。

日本財団 HP

<https://www.nippon->

[foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/new_pr_20220323_03.pdf](https://www.nippon-foundation.or.jp/app/uploads/2022/03/new_pr_20220323_03.pdf) 3_03.pdf

(倉橋)

日本人の現代の若者が消極的であることをわかります。自分の進む方向について考えさせ、気づかせていかなければならない。この点から、キャリア教育が重

要になっています。

自分のゼミではマンダラチャートなどをつくっています。経済学部の高安健一先生のゼミでは、地元農家や飲食店等と提携して形がいびつな野菜の活用を普及する活動を実施しています（経済学部の高安ゼミのショートビデオを視聴）。プロジェクト（特定目的）を中心とした実践的な学びを実施していることになります。

（商社）

今は、自分で努力しなくても何でも入手できる社会・時代になっている。向上心が他国に比べて、日本は低い。発展途上国の人をみると、知識や技術などを吸収しようとする意欲がとても強い。その逆に日本の若者は生活に満足していて、自分から何かを欲する意識が弱い。

大学でどうするか。教育の中で自己の人生観を形成させる。そして自分の好きなものを大学で見つけさせる教育が重要になってくる。学生時代に自分にぴったりの生き方は何なのかを大学で見つけてほしい。その点で、ゼミは有効だと思う。知識はあくまでベースで、それにプラスしてゼミの先生に生き方を学んだことが自分には役立った。先生や友人との触れ合いや刺激で、自分の目指すべき道を組み立てていってほしい。

（建材）

日本の若者は、自己肯定感が低いのかなと思いました。ハッピーに感じる事が少ない、成功体験を味わったことが少ない。たとえば、先ほどの経済学部のゼミ活動の事例を見ると、農家の方と関わって、周囲の人達からの反響を感じる。そうした成功体験を経験した学生は自信につながったものと思います。自分が所属した外国語学部のゼミでは、みんなで集まって詩を読むといった内容のゼミだったので、大学外部の人達と関わる活動をしているゼミのビデオ映像をみて、うらやましいと思いました。

（建材）

様々な人から様々な生き方を知ることはとても重要だと思います。社会経験のある人の声を聞くのは、参考になるはずです。経済学部では卒業生などを授業に招いていますよね。

（倉橋）

経済学部では総合講座という授業があり、卒業生を含めて企業の専門家をお招きしています。外国語学部など他学部でも、卒業生など大学外部から講師を呼んでお話を聞く授業やイベントが多数あります。また、ゼミの比較ですが、経済学部は、大学外部と連携や関係を持っているゼミが他学部より多いかもしれません。

（商社）

実際に社会で働いている人の話は、大学で身につける知識を社会でどうやって使うか、どうやって使ったかという点で、学生に参考になると思います。

(倉橋)

人間形成に関してはどうでしょうか。各科目での習得で各知識の形成はできるかもしれませんが、トータルとして的人格形成には必ずしも結びついていません。自分の中で知識や経験が有機的な化学反応を起こして、1つの人生観や世界観の形成に昇華しないといけないのですが、これがなかなか難しい。

(商社)

渋沢栄一の「論語とそろばん」の考え方はどうだろうか。ビジネスができる人はいるが、論語の考え方を持っている人は少ない。ものの真理がわかるかどうかです。倫理の授業は、大学に今ありますか。AIの時代でも人として、自制しなければならぬことがあります。こういうことを大学教育で教えてほしい。

(倉橋)

経営倫理ですね。

(建材)

昔でいうところの一般教養課程はどうなっていますか。私は大好きで、大学時代にたくさん科目を履修しましたが。教養科目というと、学生からの優先順位で専門科目の下位に見られる傾向はありませんか。リベラル・アーツに大学としてもっと力を入れてもいいのではないかと思います。

(倉橋)

情報分野という専門知も重要ですが、総合知を養成するのも大学の重要な役割ですね。獨協大学では、ご存じのように全学共通カリキュラムがあります。

(建材)

大学卒業後、フランス語を使う場面は書類の翻訳などごく限られた時しかないのですが、お客さんとの会話などでは大学時代の教養がとても役立っています。学生がリベラル・アーツの重要性を理解していないのですね。

(倉橋)

関心が、どの企業に就職できるかで、どの科目を選ぶかについて深く考えていない者も見受けられます。

3. 社会人として大学教育で役立ったこと

(倉橋)

学生時代で学んだことで、社会人になって直接的・間接的に役立ったことはありますか。

(商社)

会計と法律の知識は役に立ちました。あと語学も。この3つは仕事とつなが

っています。でも、ただ稼げばいいというのではなく、大事なのは、人としてどう生きるかなんです。学生たちの人格形成が重要だと思います。

(建材)

フランス語が直接、今の仕事に役立っていると言うことはほとんどないです。大学時代、私は先生とたくさん話をするようにしていました。そのためか、社会人になってから、年上の人と接することが苦にはなりません。大学時代の人間としての経験が、その後の企業生活に役立ったことになります。

(商社)

私も同感です。ゼミの先生の生き方が、自分には影響をもたらしました。自分の意見を主張する、イヤなことは断るなど基本的な生き方はゼミの先生から学びました。

(倉橋)

ゼミの先生との関わりが重要なのですね。

(商社)

大学は、学問や知識の付与だけではなく、先生や仲間とのコミュニケーションも重要だと思います。

(建材)

その多くは、社会人になって気がつくことになるのですけど。

(平井)

どういう人材が、企業から求められるのでしょうか。

(商社)

いくつかあります。①変化をおそれず、決断できる人。周りの環境の中で、なんとなく決まってしまうことが多く、決断できる人は意外に少ない。②相手との信頼関係が作れるかどうか。具体的には人間性が大事で、はっきり意見を言って、約束をちゃんと守れる人のことです。約束を守る人が相手から信頼を得られるのです。③コミュニケーション能力も。単に語学ができるというのではなく、自分の心を伝えられるか、そういう気持ちで相手と接することができるかどうかです。④異文化を理解する。日本人は同じ考え方の人が集まるが、違った考え方の人達の中にいろいろな成功のヒントがある。異文化を認め合えるという能力が、これからの社会で必要だと思います。⑤構想力も。自分で創り出す力がないと、つまらないと思うなあ。この5つぐらいでしょうか。

(倉橋)

失敗することを恐れ、波風を立てたくないという者も見受けられます。

(建材)

別の大学の授業で自己分析をさせたところ、年収 500 万円を目標としている学生がいました。上を望まない。そこそこのレベルで満足する学生が多いことに

なりますね。

企業に求められる人材に関しては、先ほどのご意見に同意するところが多いです。決断できない人、責任を負いたくない、失敗したくない人が上司だと部下は困るだろうなあと思います。懐が深い人、俺が責任を全部かぶるといふ人が少なくなっている気がします。

(樋田)

倫理教育に関して、ゼミ・授業・その他について具体案があればお聞かせ下さい。

(商社)

獨協の良さはゼミの仕組みではないか。やはりゼミの中で先生が生き方を話し、その中で倫理観を植え付けていくことが、効果があると思うのですが。

(西牟田)

いろいろお話をうかがって、お仕着せの倫理教育は通用しない時代になってきていると思います。問題はたくさんあるが、回答は無いといったこういう状況の中で、学生自身が自分で考える教育ができないかあと思いました。

次年度から始まる新情報プログラムについて、在校生に関して科目履修はできるものの修了証が得られない点がやはり課題になることを理解しました。

(倉橋)

本日は、貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございました。

(以上)

2023年度獨協大学経済学部卒業生ヒアリング
(書面による回答)

回答者 地方公務員(1988年経済)
2023年7月14日受信

質問1.

獨協大学は来年度から、「情報科学教育プログラム」を始動させます。

これは、デジタル人材不足に応え、かつ、理系学部を持たない獨協大学の特性に合うものと思います。

全学的な制度ですが経済学部が運用します。この制度は、例えば経営学の知識、デジタル分野の知識、英語運用能力を持った人材を養成しようというものです(文理融合人材)。

これについてのご意見をお伺いします。

(回答)

最近もチャット GPT の活用の是非など、今やデジタル技術は私たちの生活や経済活動の上で必要不可欠だと思います。地方自治体においても、EBPM【(Evidence Based Policy Making) は、「証拠に基づく政策立案】が求められてきております。データサイエンス分野などは非常に重要だと考えます。

質問2.

将来的に、キャリア教育を強化していくべきと考えます。

1) 学生さんに、どのようにキャリア形成について考えてもらうべきでしょうか。どのような授業が必要でしょうか。

(回答)

ゼミを選ぶときに「このゼミでどういうことを学びそれをどう生かしたかい？」と聞かれたように記憶しております。

二十歳ぐらいの時に自分の将来のビジョンを考えてもらうことは非常に良いことだと思います。大学に入学するときはビジョンを持って入ってくる学生は多くないと思いますが、あと2年ぐらいで社会に出るという時期には自分の将来についてのビジョンを持つべきです。社会に出ていく自分にとって有益なゼミを選ぶことは重要だと考えます。そのゼミを選ぶツールのひとつとして「マンダラ・チャート」を使い、なりたい自分になるためには何が必要かを紐解き、その中のどこのファクターのどういうところを学問で磨きをかけるのか、もしくは伸ばしたいのかを考えることが良いと思います。

私は、経済活動を通じて、市民の豊かな生活や市内の活性化に寄与したいと考

えておりました。そこで国際経済学のゼミに入っておりましたが、そこで学んだものは、前職の銀行員時代は非常に役に立ったと思っています。公務員になった今も当然役に立っておりますが。

地政学という言葉はその当時はなかったか知りませんでした。世界のそして時代の流れをつかむうえではこちらも必須ですね。

質問 2.

2) 獨協大学初代学長の天野貞祐先生は、「学問を通じての人間形成」と言っておられます。「人間」ないし「人格」と、「人材（専門的知識とも言えると思います）」の差は、人を率いていく上で重要で、その程度は、トップマネジメントに近づけば重大なものになると考えます。「人間」と「人材」の差は、どのように養われるのでしょうか。大学でできることは何でしょうか。

(回答)

「人材」はスキルのある人のことだと私は考えます。言い方はよくないですが、「人材」とは組織として目的を達成するために必要なツールもしくはパーツなのだと思います。様々なスキルについては学校での学習により十分に身につくものもあると考えます。

では、「人間」、「人物」とはどういう人のことなのかですが、頼りになる人、人望が厚い人、信用できるひと、信念がある人、物事に打ち込める情熱を持っている人、ブレない軸を持っている人等々、人によっても違いはありますが、少なくとも今あげた要素は入っているものと思います。

私は、「信念＝ブレない軸」を持ち、それを成し遂げる情熱を持っている人は「人物」といえるのではないかと思います。

当然、学生時代からそのような人はいないので、そのための種まきをする意味では、「何を学びどう生かしていきたいか」ということを考え、それを自分の軸とする。その軸は、初めは細くて折れそうなものでも、いろいろと学ぶことで強く太くしていく。その時に、いろいろ失敗することもあると思います。その失敗を自分のものにする。いろいろな失敗をしても、それを成功につないで行けるひとはまた成長できる。

成功体験をたくさんして自己肯定感を高めるといいますが、社会に出ると成功体験をできることが稀で、数多くの失敗の中で生きることになります。失敗体験が少なければ少ないほどその耐性は低く、最悪の場合はメンタルに不調をきたすことになるものと思われまます。

最近の若い職員はとても堅実で失敗しないように仕事を進めていきます。当然、失敗もありませんが、面白みもありません。新規の企画にしても、たいていは予想の範囲内のものしか上がってきません。いろいろな意味で冒険をすると

ということがなくなったと思います。冒険ですから当然失敗するリスクは大きくなりますが面白いものができると思います。

私は社会人になって印象的だったことに、目標の立て方で、「目標＝実力＋無理」というものでした。無理の部分は努力などと置き換えることができるかもしれませんが、目標を自分の実力の範囲で考えていたら成長しないということだと思います。もう一つは、「落としどころを超えて行け！」です。これも似たようなものですが想定外の範囲の外に新しい発見があるということだと思います。繰り返しになりますが、当然、失敗のリスクは大きくなります。かの本田宗一郎は、「失敗が人間を成長させると、私は考えている。失敗のない人なんて本当に気の毒に思う」と、言っております。

大学にいるうちにいろいろなことにチャレンジして、いろいろな失敗の体験を積み重ねて、そこから次に行けることが重要で、その失敗の山を乗り越えてきたのだから自分はできると思うことのほうが私は大切だと思っております。失敗を乗り越える経験こそが真の成功体験ではないでしょうか。

レジリエンスという言葉が最近目にします。レジリエンスとは環境学における生態系の復元力のことですが、最近では人の「精神的な回復力」を示す言葉として使われているようです。簡単に言うと打たれ強いということでしょうか。この打たれ強さを養うのも失敗体験ではないかと思えます。いろいろな失敗をしていくと、次からは失敗しないように気を付けるために、いろいろなことを「読もう」とすると思います。その「読む」力も大切ではないでしょうか。

様々な経験だけでなく、学問等を通して知識や知性といった側面における自分の軸を日々強く太くしていくことも肝要で、その軸は自分が望む限り成長し太くなり続け、大きく育った軸はその人をブレなくさせ、人望を集め、やがて素晴らしい「人材」ではなく素晴らしい「人間」、「人物」と呼ばれるようになるのではないのでしょうか。

自分の思いばかりで長くなってしまったのですが、大学ができることがあるとしたら、各学生に「何を学びどう生かしていきたいか」ということを考えさせ、各人の自分の軸となるものを探す手伝いをしてあげることでしょうか。本当は入学前からそのような心づもりで来ていただき、大学では磨きをかけるというか育てていくものだと思いますが、すべてがそういう学生ではないと思われまますので。すでにやっていたら申し訳ありませんが、いろいろな講座を各分野のOBを使ってやってみるのもいいかもしれませんね。

(質問)

3. 大学で学んだことが、実務で直接、間接に役立ったことをお話してください。

(回答)

経済学の基礎的な知識は、社会で大いに役立ったと思っています。経済学は生活と切っても切れないものであることからしっかり学んでおくことは社会に出ても有益です。

前職の銀行員時代は中小企業の社長さんたちと話すことも多かったので、日本全体の景気や地域経済のことなど経済学的な話ができることは営業するうえで大いに役に立ちました。

経済学部将来構想・FD・自己点検委員会メール審議結果

Date: 2023/09/19 10:23:27

皆様

大変御世話になっております。

本件、特段ご意見ございませんでしたので、審議終了といたします。

有難うございました。

倉橋 透